



フォントの機能性に関する研究 : フォントの構成要素に着目して

小林, 仔懐

(Citation)

課題研究優秀ポスター, 2026:23

(Issue Date)

2026

(Resource Type)

conference poster

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100505002>



フォントの機能性に関する研究

ーフォントの構成要素に着目してー

キーワード：フォント、印象、構成要素 5218 小林仔懐

目的

フォントの構成要素の変化と印象の変化の関連性を調査（アンケート）

目的にあった適切なフォントを選びやすくする。

アンケート

以下の通り、フォントの構成要素をそれぞれ一つずつ変化させた画像を4枚用意した。
それぞれの画像について、美しさ、強さ、真面目さ、優しさ、怖さ、面白さを、aの文字列に強く感じるか、bの文字列に強く感じるか、変わらないか、どちらにも感じないかを聞いた。

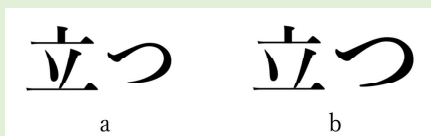


図1：ふところの広さを変化させた文字列
文字の画と画が構成している内側の空間のこと。
一般的に、ふところが広い→おおらかな印象
ふところが狭い→ひきしまった印象

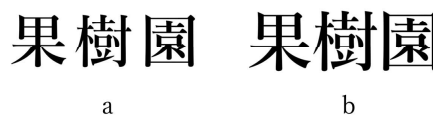


図2：字面枠の大きさを変化させた文字列
字面（文字の形をした部分）が収まる枠のこと。
文字間の見え方に大きく関わる。

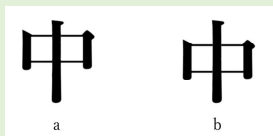


図3：重心の高さを変化させた文字列
文字のバランスの中心の高さのこと。
一般的に、重心が高い→緊張感、品格
重心が低い→安定感、親しみやすさ

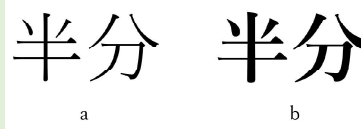


図4：ウエイトを変化させた文字列
書体の太さのこと。
書体の中には、いくつかのウエイトでファミリーを構成しているものもある。

結論

本研究では、フォントにおいてそれぞれの印象を上げたいときに、以下の通り構成要素を変化させることが適当だと結論付けた。空欄は、行ったアンケートで大きな差が見られなかったため、本研究では判断不能と考えた箇所である。

上げたい印象	変化させるフォントの構成要素			
	ふところ	字面枠	重心	ウエイト
美しさ	狭くする	小さくする		太くする
強さ	広くする	大きくする	低くする	太くする
真面目さ	狭くする		低くする	太くする
優しさ	広くする	小さくする		細くする
怖さ	狭くする	大きくする	高くする	太くする
面白さ	広くする	大きくする	低くする	細くする

表1：印象とフォントの構成要素の関連

重心については、他の構成要素に比べアンケートの結果に差が付きにくかったことから、個人の好みが大きい可能性がある。
また、面白さに関しては、アンケートでどちらにも感じないと答えた人が多かった。そのため、上記の結論の信憑性は低い可能性がある。

参考文献

- [1] フォントの違いによるイメージの伝達効果：石原次郎、熊坂亮（2002） 北海道大学
- [2] フォントの持つシズル感のデザイン化手法の検討：笠井ゆきひ、佐藤弘喜（2017）日本デザイン学会
- [3] フォント用語集：株式会社モリサワ（2026/02/03最終閲覧）<https://www.morisawa.co.jp/culture/dictionary/>